

平成30年度 事業所向け放課後等デイサービス自己評価表 集計結果

子ども広場 にこま〜る中田

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	85(%)	15(%)	(%)	活動室は、和室3室(7.5畳+7.5畳+6.5畳)+フローリングスペース(12畳)+廊下+調理スペースです。基準に対して必要な広さを確保しておりますが、活発に活動するためには十分とは言えません。活動の内容によっては中田生涯学習センターの体育館や農村環境改善センターの多目的ホール、近くの公園へ出かけるなど、広い場所を確保し、活動意欲を妨げないよう配慮しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	85	15		職員の配置は常に基準を上回っており、十分な数を確保しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	40	60		既存の建物をお借りしておりますので、状況の許す限り改修を重ね、活動場所の改善を図っています。スロープはトイレのみとなっております、段差もある活動室ですが、バリアは体幹作りやバランスを整える機能訓練に生かしています。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100			毎月、職員全体のミーティングで業務改善を図っております。また、毎週火曜日にミーティングを行い、翌週の活動計画の確認や、個別の支援計画の評価や目標設定についての話し合いをしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40	60		アンケートの取り組みを始めて2年目となります。保護者の皆様には集計結果と改善への取り組みをお示ししています。職員アンケートで出た課題については、各自が改善案を考え、それをもとに全員で話し合い、取り組んでいくサイクルができています。また多くの方が閲覧しやすいように、ブログへの掲載と玄関先での掲示により公表します。このアンケートは今後も継続して行い、業務改善に努めてまいります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	40	60		第三者による外部評価は行なっておりませんが、保護者アンケートによる評価や宮城県からの指導監査という形で外部評価を受けています。指摘を受けた部分に関してはその都度迅速に改善しております。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100			発達障害の理解、支援方法の向上、虐待防止など各種研修を受けて、常に職員の専門性の向上に努めております。2か月に1回チーム力向上のワークショップを行い、全体としての支援力向上も図っています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	70	30		研修を受けた児童発達管理責任者が、サービス等利用計画書に沿った個別の支援計画を作成しています。契約時や6ヶ月ごとのモニタリングの時には、保護者の方のご希望をよく伺い、日頃の子どもの成長を鑑みて、その子にあった個別支援計画を作成し、保護者の方の同意の元に支援をしています。アセスメントツールとしてのJSKEPの活用を行っています。今後は専門職と連携して、WISC検査を実施するなど客観的なツールを活用して、より効果的な支援計画にしていける予定です。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	40	60		
適切な 支援の 提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100			指導員に加えて地域の方を講師として招き(かなプロ)、月間スケジュールや日々の活動の段取りを考えています。活動項目は運動、音楽、科学、芸術、調理、子ども会議と多岐にわたり、季節ごとに歳時記を意識した活動も行っています。それらは、子ども達の状況に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせています。また活動室内(主に玄関や廊下の壁面)は子ども達の作品の発表の場として整備し、本人の意欲向上を図っています。学校が休みの日は他施設へ出かけた
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100			イベントに参加したり、マルシェを企画したりと、幅広い活動でソーシャルスキルトレーニングができるよう工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	85	15		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	70	30		活動のおおまかな流れは1週間分の担当を決めて職員間でも確認していますが、当日は、学校の帰り時間や午前利用者の活動の内容の関係で、全員でそろうのは難しい状態です。まずは、当日の伝達事項については文字にして情報共有を図り、それぞれがしっかり確認して、充実した支援を行えるよう環境を整えます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100			支援終了後、利用者の様子や特記事項について各々が気づいたことを記入し、業務日誌で全体で共有しています。活動の振り返りについても丁寧に行い、次の活動に生かすよう努力しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	85	15		利用時の様子については、その日のうちに個人ごとに文章化し、ケース記録として整理しています。印刷してケース記録は鍵のかかる書庫で管理し、支援の合間に閲覧して情報を共有、支援の検証改善に努めています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	70	30		個別支援計画作成後、6ヶ月ごとにモニタリングを行い、その内容に従って、児童発達支援管理者を中心に個別支援計画の継続、もしくは見直しを行なっています。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っているか	70	30	ガイドラインは職員間で回覧し情報共有して います。総則にある自立支援と日常生活の充 実のための活動、創作活動、地域交流、余 暇支援について、学校や家庭、地域と連携 した活動プログラムを作成して支援をして います。	
関係機 関や保 護者 との 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画しているか	85	15	サービス担当者会議については、児童 発達管理責任者や管理者が参加して います。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予 定等の交換、子どもの下校時刻の確認等） 、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発 生時の連絡）を適切に行っているか	100		学校からは年間計画・行事予定表を いただいております。学校でのケース会 議にも参加するほど連携がとれている 学校もある一方で、なかなか情報共有 が進んでいない学校もあります。お迎 えの際に先生方と情報交換できるよう 心がけて参ります。また下校時刻の確 認については、直接学校に記入する用 紙を渡し、教えてもらうようにして います。しかし、下校時刻自体が流動 的でありうまくいかない時もあります が、学校との連携をより深めるよう にしています。下校時刻の共有のほ か、利用児の学校での様子を把握す るために授業見学を計画し、今年度 は迫支援学校に受け入れていただき ました。同じ視点で支援を行うために 大変有効です。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入 れる場合は、子どもの主治医等と連絡 体制を整えているか	15	70	15	現在、特別な医療的ケアが必要な 利用者はいませんが、服薬に関しては 保護者の方の指示により、確実に 行えるよう注意しています。口頭 での指示にとどまっているので、今 後必要に応じて書面でのやり取りも 検討していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼 稚園、認定こども園、児童発達支 援事業所等との間で情報共有と相互 理解に努めているか	60	40	就学前の情報はほぼ保健師からの ものに頼っており、幼稚園や事業 所との情報交換は特定の場合に限 られています。今後は地域の子育 て施設や放デイ事業所の連絡会 議など、積極的な地域連携に努 めます。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサー ビス事業所から障害福祉サービス 事業所等へ移行する場合、それ までの支援内容等の情報を提供 する等しているか	85	15	必要な際は情報提供を行って います。卒業前に障害福祉サー ビス事業所がデイでの様子の見 学を申し出られた場合は、随時 受け付けています。	
関係機 関や保 護者 との 連 携	25	児童発達支援センターや発達障 害者支援センター等の専門機 関と連携し、助言や研修を受け ているか	85	15	発達障害者支援センターのペア レントトレーニングなど過去には 研修を受けました。遠方にある ため物理的に難しい部分もあり ますが、今後センターの作業療 法士などに活動をご覧いただき 、支援方法などについて助言を 受けたいと思います。	
	26	放課後児童クラブや児童館との 交流や、障害のない子どもと活 動する機会があるか	30	70	現在の活動は主にこま～の 子ども内で完結することが多い ですが、奏海の杜は子どもを 地域の中で育てるという理念を 掲げています。今回、地域内の 他事業所と合同のイベントを 企画することができ、一歩踏 み出しました。今後も、子 ども達が交流できる機会を 図っていきたく思います。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ 積極的に参加しているか	70	30	南三陸町の自立支援協議会 では委員として積極的に参加 し、地域の障害者福祉環境の 向上に努めています。協議会 の内容は回覧しスタッフ内での 情報共有を図っております。	
	28	日頃から子どもの状況を保護 者と伝え合い、子どもの発達 の状況や課題について共通理 解を持っているか	100		保護者の方々と送迎時や 連絡帳でその日の子どもの 状況を伝え合い、子どもの 状態や課題について共通理 解を図っております。お忙 しいご家庭にも見ていただ けるよう、工夫していきます。	
	29	保護者の対応力の向上を図 る観点から、保護者に対し てペアレント・トレーニング 等の支援を行っているか	60	40	2月に2回目の保護者会 を行いました。その機会を 利用して、ペアレント トレーニングや保護者 支援をメインとした学 習会など研修の機会 を作っていきます。多 くの保護者の方々に 参加していただける よう準備します。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者 負担等について丁寧な説明 を行っているか	100		契約時、モニタリング 時に、時間をかけて 管理者や児童発達 管理責任者が説明 しております。期 の途中での変更 については、その 都度お便りを出 して周知を図って います。不明な 点があればお声 がけいただいた 時に随時説明 しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み 等に対する相談に適切に応 じ、必要な助言と支援を行 っているか	100		送迎時などその都 度お話をさせて いただいています。 これまでは、 モニタリング 以外に改めて 面談の機会 は設けており ませんでしたが 、2020年度 からは、毎月 定例の相談 日を設け、希 望者に対応 することに しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり 、保護者会等を開催する等 により、保護者同士の連携 を支援しているか	30	70	今まで保護者 方々同士の 連携を支援 するような 会を設けた ことはありません でしたが、 2019年2 月に第2回 保護者会を 「卒後のこ とを語ろう」 をテーマに 開催しまし た。参加さ れた方々 には有意義 で楽しい時 間を持っ ただけたか と思います。 その場で、 保護者同 士が繋が ろうとい う気運が 高まりました 。この高 まりを奏 海の杜が 下支えし 、より良 い形を作 っていき たいと考 えています 。	
	33	子どもや保護者からの苦情 について、対応の体制を整 備するとともに、子ども や保護者に周知し、苦情 があった場合に迅速かつ 適切に対応しているか	70	30	苦情に対する 対応は、その 都度誠意を もって行っ ております。 人員や資金 の面からご 希望に沿 えないこと も多々あり 、保護者の 皆様には 声を上げ ることな く様々な ご協力を いただい ていること もあるか もしれませ ん。引き 続き体制 を整え安 定した事 業を行 えるよう 精進して まいり ます。	
	34	定期的に会報等を発行し、活 動概要や行事予定、連絡 体制等の情報を子ども や保護者に対して発信 しているか	100		季刊「こま～」で奏 海の杜の考 え方や活 動の様子 を伝えて います。毎 月発行す るこま～ の通信で はその 月の子 ども達 の様子 と次月 の活動 内容を 発信し ており ます。ま た、201 7年度 からは ブログ を毎週 木曜に 更新し 、より タイム リーに 様子 をお 伝え して いま す。	

保護者への説明責任等	35	個人情報に十分注意しているか	100		個別支援計画や個人情報は子どもごとにファイルを作り、鍵のかかる書庫で保管しています。支援に必要な情報は職員間で共有しますが、雇用契約時に個人情報の取り扱いについて、守秘義務の徹底を誓約書で取り交わしています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100		子ども達との意思疎通は支援コーディネーターの指導のもと、言葉を重視しつつ、絵カードや表情など非言語コミュニケーションを豊かに使っています。にこま〜ると保護者の方々と繋ぐ大きなパイプは連絡帳です。職員は毎回必ず目を通し、にこま〜るでの様子を記入しております。職員間の情報の伝達には業務日誌に引き継ぎ事項の項目を作り、出勤時には必ず目を通すようにして情報共有を徹底しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	85	15	2018年度には地域へ向けて夏祭りを行いませんでした。広報が十分ではなかったため、地域住民の参加は少なかったため、来年度は広く参加していただけるよう工夫します。2か月に一度行なっている障害福祉をテーマに開催するコミュニティカフェ（にこカフェ）は、参加者も増え地域に開かれた行事になってきました。今後も、お祭りに参加する、イベントを企画する、ボランティア活動をするなど、地域の方々と交流する場を積極的に持っていきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	70	30	施設として必要なマニュアルは整えていますが周知が足りませんでしたので、事務所の見やすい場所に設置して必要な時はいつでも見られるようにしました。今後は定期的にマニュアルの見直しを行い、必要に応じて皆で共有する場を設けます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	60	40	避難訓練は子ども達とともに年に2回行っていますが、十分な回数ではありませんでした。放課後の短い時間の場合、送迎中の場合、職員が少ない場合など様々な非常時を想定して年6回を目標に行い、子ども達との意思疎通を深めたいと思います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	70	30	職員数名が県や市が行う虐待防止に関する講習を毎年必ず受講し、内容を他の職員へ共有することで適切な対応ができるよう努めています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	60	40	身体拘束を行う場面はありません。（拘束力の強いチャイルドシートの使用に関しては、対象利用児の個別支援計画に反映し、保護者の方の同意を得ております）障害特性による興奮状態になった場合や他害行動が現れた場合でも、身体拘束にならない環境を整えることに注力し、本人が落ち着ける方法について職員間で検討を重ねています。体系的にまとめたマニュアルを作成しましたので、今後は個別の支援計画に反映させるとともに、職員間での支援の統一を図っていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	60	40	契約時に保護者の方からアレルギーに関して聞き取りをおこなっています。現在食物アレルギーを持つ利用者はおりませんが、必要となった場合は、保護者の方々と専門職の指導の元、しっかり管理してまいります。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	70	30	ヒヤリハットについては報告を義務化しており、事例集を備えています。発生状況や原因の分析、対応策を記入し、新しい事例に関してはミーティング時に職員全員状況の把握と改善策を考え、その後の支援に生かすようにしています。